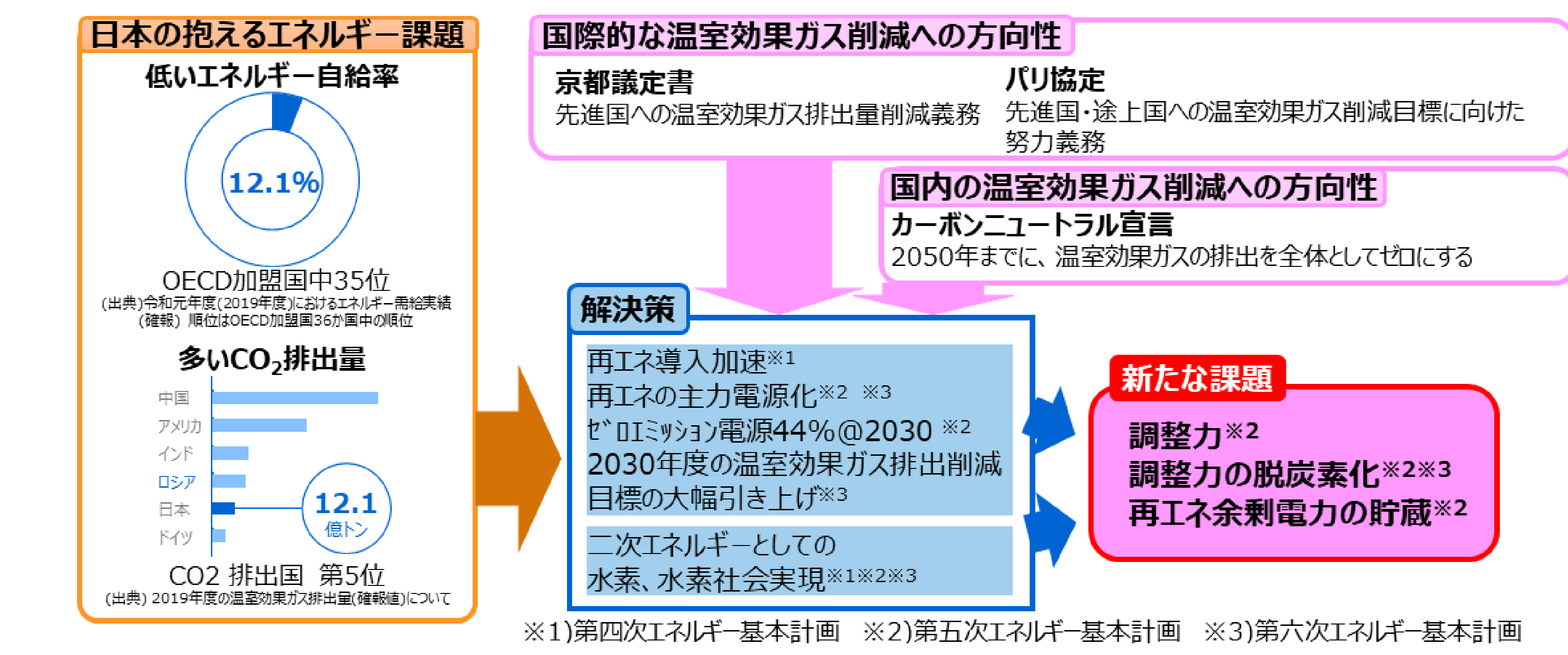
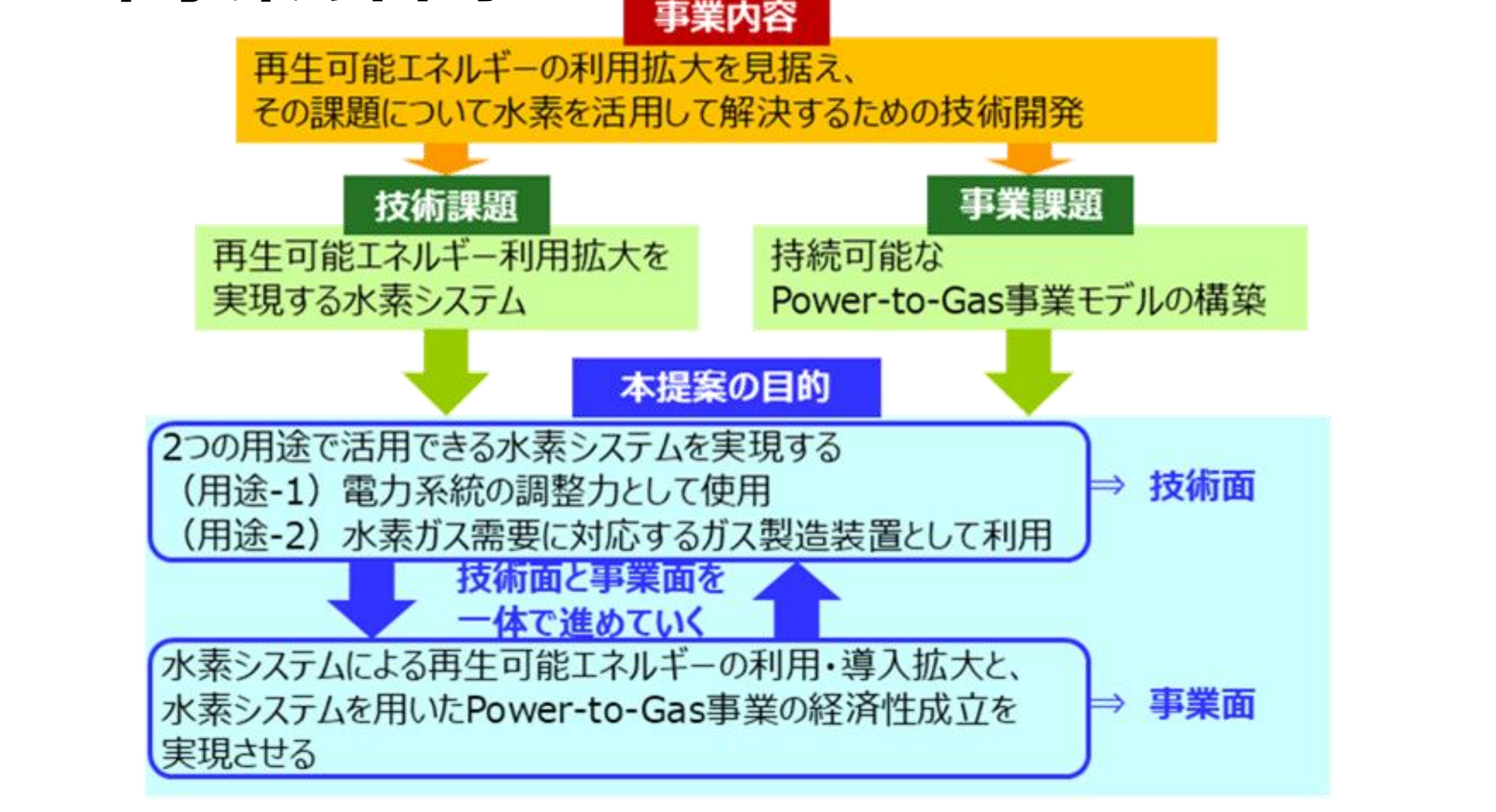


■ 背景や目的

➢ 本事業を実施する背景



➢ 本事業の目的

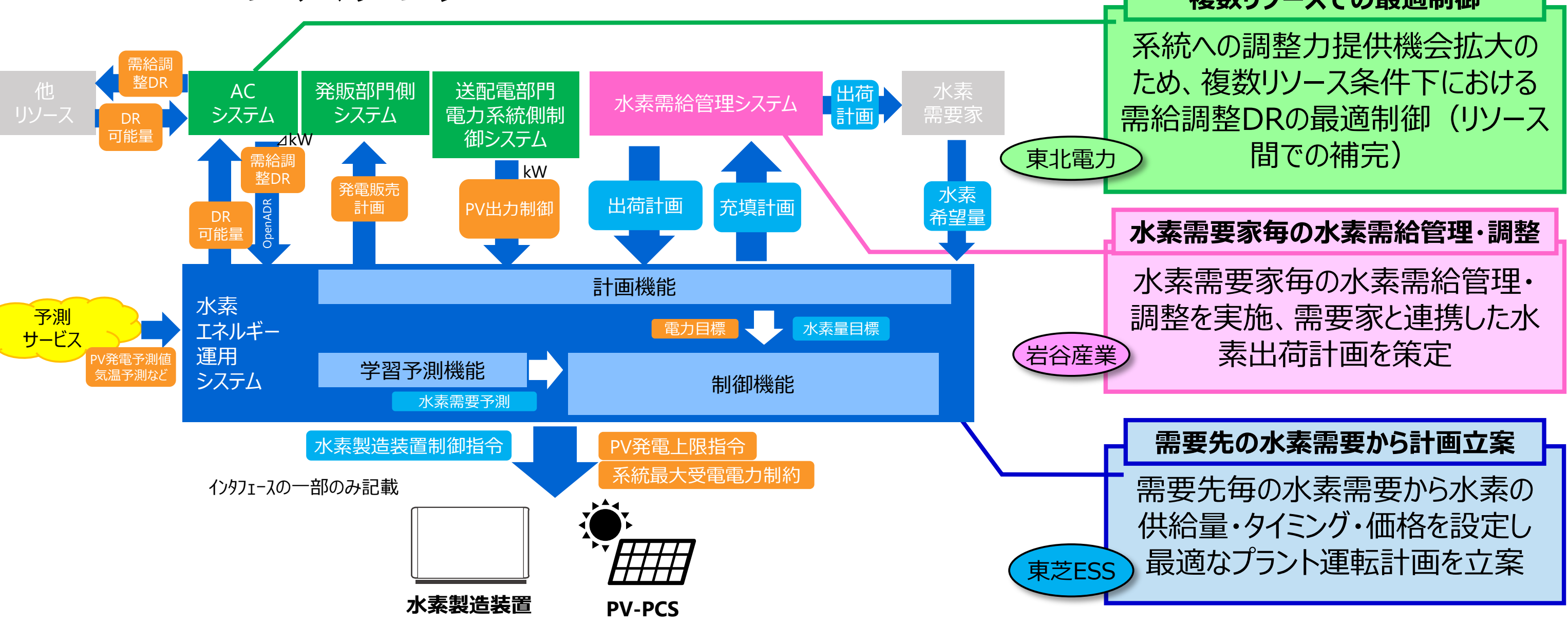


■ 顕著な成果

➢ 実証プラント



➢ P2Gシステム

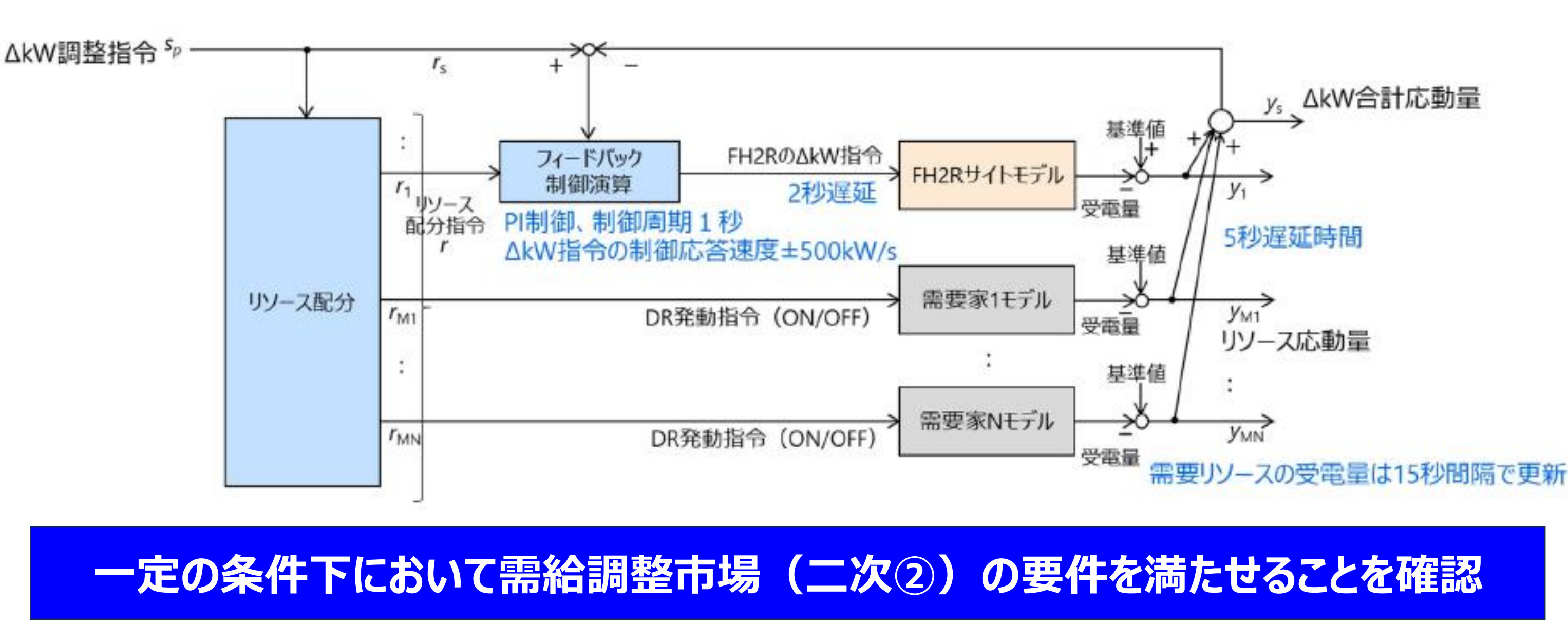


2023～2025年度は、複数リソース条件下の需給調整市場対応と水素需要家と連携したプラント運転計画の立案が可能なシステムを開発中

➢ 需要家連携システムの構築

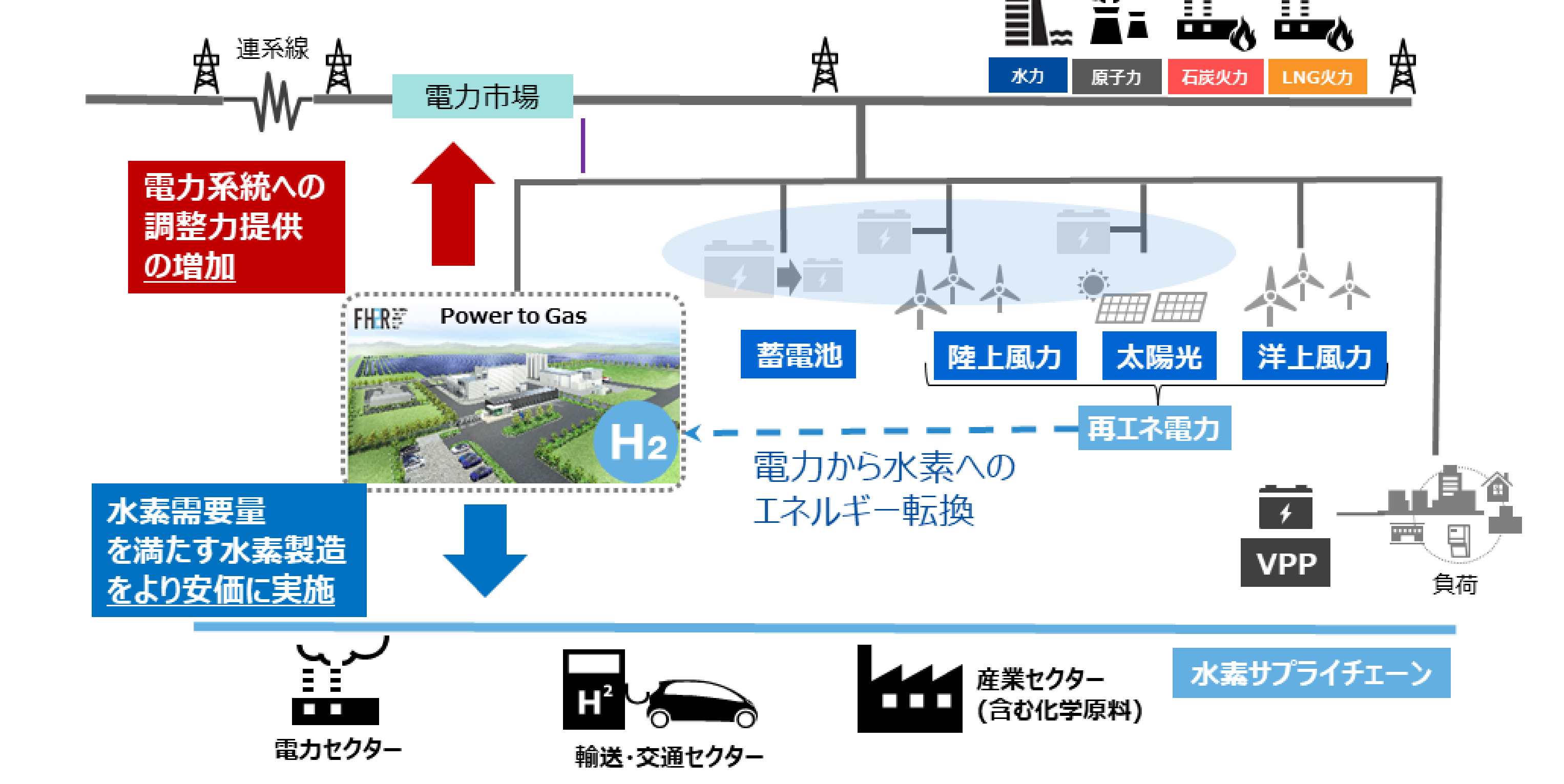


➢ 複数リソース条件下における需給調整市場に対応したAC/RAシステムのモデルを構築



■ 実用化・事業化の見通し、課題等

➢ 実用化・事業化のイメージ



最適稼働条件で無い場合においても、「電力系統への調整力提供の増加」と「水素需要量を満たす水素製造をより安価に実施」の両立を実現する

➢ 実用化・事業化に向けた具体的な取り組み

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026頃～2030頃
制御システム	開発・設計	実装・試験	実証運用	実証運用	実証運用	実証運用	実証運用	実証運用	事業化検討
水素プラント/構成装置	開発・設計	実装・試験	実証運用	実証運用	実証運用	実証運用	実証運用	実証運用	事業化検討

実証延長

実証延長

事業化検討

再エネ+P2Gによる国産水素の大量・安定供給による一般消費材(キドライバ)への先行活用と需要喚起

構成機器(水電解装置等)の更なるコスト低減・大規模化

大規模P2Gプラントの実装と制御による大量再エネ導入(洋上風力等)初期に対する実運用と改善

複数の需要セクター側を取り込み、ネットワークレベルでの製造単価低減を可能とする技術の開発と展開

水素基本戦略/エネルギー基本計画目標

FH2Rを軸に研究開発を行い、Power to Gas実用化を達成し、多面的・多層的にCNに大きな貢献が出来るように進めていく